

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	407004022138		
法人名	有限会社 笑和		
事業所名	グループホーム笑和		
所在地	〒803-0842 北九州市小倉北区泉台2丁目7-19 (電話) 093-651-5965		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 7 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「叱らない・命令しない」ことをモットーとしているが、同じ目線で目を見て声を掛け、応えることで利用者さんに安心して心を開いてもらえるのではないかと考え、接し方の基本としている。利用者からの信頼も穏やかな生活も「安心」がなければ得られず、終末期における豊かな生活は利用者さんが安心してすることに他ならない。その中で個人個人の特性に合ったペースやケアを心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 5 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は木造2階建てで、都市高速のインターから近い住宅街に位置している。事務所内は家庭的な雰囲気を感じられる。感染対策に職員一丸となり対応している。「和やかに笑いのある、みんなの家（笑和）」を目指し、町内に溶け込んでいる。コロナ禍で地域交流は少なくなっていたが、次年度の目標は地域参加に力を入れる予定である。勤務年数が長い職員も多く、働く環境や雰囲気の良い職場づくりに努めている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員と訪問者の目に入る玄関とリビング内の掲示板に理念を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている。	理念は、地域活動に参加するとともに、福祉サービスが総合的に提供されるよう援助すること目的としている。普段から管理者は職員に声をかけて、理念の実践について話し合いの場を設けている。事業所理念は共有スペースや更衣室に掲示していて、常に理念を確認することができる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はまだコロナ禍の影響により、中止となっているが、ヨガ体操、歌謡ショー等のボランティアの訪問や近隣で開催されるふれあい市場への参加。また、イベント時には近隣の住民の方々をお誘いしている。	自治会に加入している。コロナ禍前は町内のカラオケ大会や夏祭り、保育園来訪等の交流をしていた。現在は以前と比べると地域との交流が少なくなっているため、今後は地域との交流に参加する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者ご家族や地域の方々とお交流する場を設け、認知症の理解や支援方法を実践している。 また、相談等にも対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月一回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、施設の問題等の報告や話し合いを行い、参加者からのご意見やアドバイスを参考にしてサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催している。利用者状況や行事予定、事故報告、感染対策等の内容を報告している。参加者からの意見や質問は、すぐに対応しており、次回の会議で報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談などは市の介護保険課に報告連絡をおこない回答を得ている。 運営推進会議に出席される地区民生委員、包括センターの職員に事業所の取り組みや現状を伝え、協力関係を維持できるように努めている。	毎月、入居状況を行政に報告している。介護認定更新申請や公費の手続き、おむつ給付等の申請は、区役所の窓口で相談をしている。業務に関することはメールを活用して報告を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止会議を開催し、職員に周知している。 また、玄関は常に開放しており利用者様がいつでも自由に入出りできるようにしている。 玄関への出入り口にはセンサーを用い事故につながるリスクを減らし、拘束をしないケアを心がけている。	日中、玄関等は施錠していない。マニュアルは身体拘束ゼロの手引きを使用し、身体拘束しないケアを実践している。職員に向けた研修を年に2回行い、新入社員は入職時に研修を受けている。身体拘束廃止委員会は3ヶ月に1度委員会を開催し、議事録は職員に回覧している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等にも留意し、施設内研修会で高齢者の虐待防止について学び、日常の業務の中でお互いに意見を出し合い気を付けるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度については、入居時に説明を行っている。内部研修等で制度については学んでいるが、現実には利用に至っていない。	マニュアルを整備し、権利擁護利用等の質問は管理者が対応している。入居契約時に権利擁護のパンフレットを活用して説明を行っている。研修は年に1度行い、新入職員の入職時には権利擁護研修を実施している。研修資料を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、内容を把握して頂いたうえで、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議、また、入居者様には日々の会話の中で意向や要望を聞き、ご家族様にはその都度ご意見、ご要望等お伺いしている。	家族が利用者に会いに来た際に、職員や管理者が家族と面談し、利用者の身体状況や生活状況について報告している。その際に家族からの意見を聞いている。意見や要望があった場合は、各フロアにある申し送りノートに記載し、職員へ周知している。広報誌は年4回家族へ郵送している。遠方の家族にはSNSやTV電話を活用して情報を共有している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行っている。また、日々の申し送りなどで、職員がご意見や提案など日常的に言い易い環境を作りその都度管理者にあげ、検討し反映させるように努めている。	朝、夕の申し送りの際に業務で感じたことを聞いている。施設長や管理者も現場業務に携わっていることから、職員にとって話しやすい環境である。年に1度、自己評価を行い、個別面談をしている。管理者と職員からアイディアが出された時は、検討し全職員に周知している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績、年功等を鑑み、適切な評価を心掛けている。働きやすいよう個々の事情や条件聞き入れている。R6.9月よりベースアップ等支援加算を導入し職員の昇給に充てた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については年齢、性別の制限は特にならない。 職員の能力が発揮出来るようコミュニケーションを図り。働きやすい個々の事情や条件を聞き入れている。	男女問わず雇用している。定年はあるが、希望に応じて再雇用も可能である。無資格者であっても一から指導を受けて働くことができる。資格取得を希望する際は、法人が費用負担や勤務調整をしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に人権の尊重を謳っており、日常的に入居者様と良好な関係を築くことを心掛けている。	人権教育・啓発活動のマニュアルを設置している。職員に対して内部研修を行い、研修記録を保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一定の職員以外の外部研修は現状出来ていないが、新人職員には経験豊富な職員が指導し、実務を通して学んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常グループ内での意見、情報交換など定期的に行い、研修などで知り合った他施設の職員等とも情報交換等行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から出来るだけ多くの事情、情報を伺い、入居後もご本人の不安や要望等を傾聴し誠実丁寧な対応と説明をすることで、安心し信頼して頂ける関係作りにも努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時より困っていることや不安、要望等を伺いご家族が望む生活が出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が必要としている支援または、現在の状況を把握しホームでの生活の中で何を一番望んでいるかを伺い、実践に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が「できること」「できないこと」を把握し、相手の思いを理解し共に関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時に本人の状態や日々の様子を説明し、特記事項があれば家族の方に報告している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の方との面会の場を作り交流する機会が持てるよう支援している。	友人、知人と玄関口で面会することができる。携帯電話や事業所の電話を使用して連絡することができる。また、SNSやTV電話を活用して、馴染みの人との関係継続の支援を行っている。利用者の希望があれば、職員と一緒に馴染みの場所へ出かけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はみんなで居間で過ごして頂くように促している。利用者様の性格や相性を把握し、レクリエーション等を通じ利用者同士がコミュニケーションや交流の場を作り関係が円滑になるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に伺ったり相手の方から相談等があれば必要な情報を提供共有や連携に努めている。 ご家族からのご連絡ご相談などもある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の悩みや要望など毎日のコミュニケーションを取る中で把握出来るように努めている。 困難な場合はご家族に相談している。	入所時や面会時に家族から聞き取った情報や日常会話の中から思いや意向を聞きとっている。コミュニケーションの難しい利用者には特に行動パターンの変化や表情の変化など細かい部分にも気を付けている。可能な限り思いや意向に添うようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴を聞き取り、コミュニケーションを取る中で情報の把握に努め、ホームの生活の中に少しでも取り入れられるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や過ごし方を記録し申し送りすることで変化や発見等を職員間で情報共有し現状把握、それぞれにあった生活が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの情報や意向を取り入れ、定期的に見直しをしている。また、状態等の変化によって適宜介護計画の変更している。その際はご家族、主治医のご意見も反映できるように努めている。	6ヶ月に1回、介護計画を見直している。状態変化があったときは随時見直しを行っている。利用者や家族、かかりつけ医、職員の意見を聞き、介護計画に反映させている。利用者や家族に説明をして同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やヒヤリハット、グループLINE等で広く情報を共有し介護計画の見直し、実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のその時の状況に応じ、必要な支援が出来るよう努めている。 また、ニーズを発信できない利用者様は、詳細な状態観察をしてご家族、主治医等と相談しながらご本人にとって一番良い状況になるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で中止となっていることもあるが、各々の地域資源を把握し、利用できるように配慮している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回と隔週1回のかかりつけ医による往診があり、その際に個々の状態を報告している。 また、かかりつけ医についてはご本人、ご家族様の希望に沿うように努めている。	入居前からの病院を継続するかは、利用者や家族の意向に沿っている。通院は職員が付き添い、歯科は必要に応じて訪問診療を受けている。緊急時は職員が同行し、診察や検査後の医師からの説明まで家族と聞くようにしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の採用。 また、訪問看護ステーションと連携し、ご利用者様の健康状態の報告、相談、リハビリ等日々の健康に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご利用者様が適切な医療、看護を受けられるよう必要適切な情報提供に努めている。 また、面会に伺ったり、ご家族様と綿密に連絡を取りご本人の状況を把握するように努めている。 長期入院となった際はその後の相談にも対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期、看取りについての話し合いや説明をし、事前に確認を行い書面化して同意を得ている。 また、家族や主治医や看護と共有し、方針を図って支援している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行い、利用者や家族の意向を聞き同意を得ている。状態の変化があった時には、利用者や家族の意向を確認している。家族へは医師から電話で状態説明してもらうこともある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は実地出来ていないが緊急対応マニュアルをリビングに置いている。 緊急の際は救急車を要請することを基本としている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル、職員の緊急連絡網を作成しており、体制は整っている。 運営推進会議を通じて地域との協力体制を気づいている。	年2回避難訓練を行っている。利用者も実際に訓練に参加し、避難誘導訓練を行っている。3日分の非常食や備品を保管し、保管場所を職員に周知している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の羞恥心の配慮だけでなく、ご利用者の気持ちを尊重し、個人情報や権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いに対応に努めている。	プライバシーに配慮した支援を行うように心がけている。他者に気づかれないようにトイレへ誘導したり、耳元で話をしたり、居室で話をする等の工夫をしている。プライバシーに関する内部研修を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いを発信できるような環境作りや言葉掛け、人間関係作りをし最初から否定しないように努めている。 自己決定が困難な方には言動からニーズを読み取り意に沿うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床や就寝時間等を一人一人のペースに合わせている。 一日の流れや時間の使用方法も一人一人のペースを最大限に尊重し寛いで居心地よく生活出来るように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣等ご自身の希望通りのおしゃれを楽しんでいただいている。 認知度の高い利用者様には、清潔を心がけ、季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしておしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の昼食と夕食は職員が調理を実践している。 食事後の食器拭き等利用者様の能力に合わせてお手伝いをしていただいている。 昼食は職員と共に会話を楽しみながら食べている。	平日は業者からの配食であるため、配食のない日曜日に、日常会話から希望のあったメニューを提供するようにしている。希望は麺類が多いが、最近ではちらし寿司等のひな祭りにちなんだ食事を提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を都度把握し記録している。 個々の状態に応じて食事形態や量、食べやすい器を変えたり必要に応じて食事介助を行い安全に食事が出来るように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 必要であれば声掛けや介助をし、歯磨き後のチェックを実地している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄の失敗が無いように定時と随時声掛けや誘導を実践している。	一人ひとりの状態を排泄チェック表で確認しながら、トイレへ誘導している。尿取りパッドが大きめのものから小さいものへと変更になった事例がある。便秘の利用者が入浴時に浴槽で温まることで改善するなど工夫して支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し、看護師、主治医と連携を取り個々に合った排便コントロールを行っている。 また、便秘予防の為に食事や水分摂取を促し、毎日適度な運動を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週に2回、午前から午後にかけて行っている。 無理強いはせず湯の温度や時間など好みに合わせてゆっくり楽しんでいただけるよう努めている。	週2回入浴を基本としているが、希望があればいつでも入浴できるよう準備している。入浴を望まない場合は、別の日に変更する等、臨機応変に行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いす使用者や体力が乏しい利用者様はベッドやソファー等で休息する時間を持てるようにしている。 日中に活動の場を多く提供し、夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容が分かりやすいようにファイルしており、間違いなく服薬できるように与薬のチェックを職員2名以上で行っている。 臨時薬は、直接口頭で伝えるとともに、グループLINEや連絡帳を使用し職員全員が確認出来るように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた役割を家事や活動の場で持って頂き自己有用感、楽しみを持てるよう支援している。 塗り絵やパズルやゲーム等、その人に合わせた楽しみごとを提供している。 また、好きな方には食器拭きや洗濯物たたみ等家事全般のお手伝いも実践している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームから外食・遠足・散歩・初詣・ふれあい市場・買い物の付き添い等、定期的に外出を実施していたが、現在はコロナ禍の影響で出来ていない。 個人的な買い物等、希望があれば外出できるよう努めている。	コロナ禍前は散歩やドライブ、外食、買い物等、外出支援を行っていた。現在は徐々に再開しており、正月にはオードブル等をテイクアウトし、新年を祝った。近隣の散歩やお花見ドライブ等を計画している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をを行った際はご本人の希望や力に応じご本人が支払えるよう援助をしている。 各々のお金は、ご家族やご本人の希望により責任を持ってお預かりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話があれば必ずご本人に取り次ぎ、ご本人からの希望があれば、いつでも電話を使用できるようにしてご利用者の交流関係が継続できるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関・廊下・居室等に季節に合わせた飾りなどしている。 また、毎日清掃し必要に応じ遮光したり、室温や湿度の調整、換気を行い快適に過ごして頂けるよう努めている。	共用スペースでは、自然光が差し込み、よしずやブラインドで光の調整をしている。 利用者はゲームや塗り絵、パズル等、やりたいことをやりたいタイミングで行っており、自由にできる空間となっている。壁面には手作りの季節が感じられる作品が飾りつけられている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングなど各々が思い思いに居場所を見つけくつろいで過ごせるよう配慮し、状況に応じて座る場所を誘導し、皆さんが落ち着いて過ごせるよう気配りをしている。 ソファやテーブルで談笑する場面も多い。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、馴染みや思い入れのある家具や物を置きその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室づくりをしている。 また、希望により新たに好みのものを導入するときもある。	居室は和室と洋室がある。馴染みの家具等の持ち込みを自由にできる。居室には利用者が作った作品等が飾られ、シンプルながらも落ち着いた生活空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解しやすいように貼紙を利用したり、利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保、環境整備にも気を付けながら、出来る限り自立した生活が安全に送れるよう工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員と訪問者の目に入る玄関とリビング内の掲示板に理念を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はまだコロナ禍の影響により、中止となっているが、ヨガ体操、歌謡ショー等のボランティアの訪問や近隣で開催されるふれあい市場への参加。また、イベント時には近隣の住民の方々をお誘いしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者ご家族や地域の方々とお交流する場を設け、認知症の理解や支援方法を実践している。 また、相談等にも対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月一回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、施設の問題等の報告や話し合いを行い、参加者からのご意見やアドバイスを参考にしてサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問や相談などは市の介護保険課に報告連絡をおこない回答を得ている。 運営推進会議に出席される地区民生委員、包括センターの職員に事業所の取り組みや現状を伝え、協力関係を維持できるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に拘束廃止会議を開催し、職員に周知している。 また、玄関は常に開放しており利用者様がいつでも自由に入出入りできるようにしている。 玄関への出入り口にはセンサーを用い事故につながるリスクを減らし、拘束をしないケアを心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護施設や介護関連の報道等にも留意し、施設内研修会で高齢者の虐待防止について学び、日常の業務の中でお互いに意見を出し合い気を付けるように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見人制度については、入居時に説明を行っている。内部研修等で制度については学んでいるが、現実には利用に至っていない。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、内容を把握して頂いたうえで、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分に話し合い、理解と納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議、また、入居者様には日々の会話の中で意向や要望を聞き、ご家族様にはその都度ご意見、ご要望等お伺いしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議を行っている。 また、日々の申し送りなどで、職員がご意見や提案など日常的に言い易い環境を作りその都度管理者にあげ、検討し反映させるように努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績、年功等を鑑み、適切な評価を心掛けている。働きやすいよう個々の事情や条件聞き入れている。R6.9月よりベースアップ等支援加算を導入し職員の昇給に充てた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用については年齢、性別の制限は特にならない。 職員の能力が発揮出来るようコミュニケーションを図り。働きやすいよう個々の事情や条件を聞き入れている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に人権の尊重を謳っており、日常的に入居者様と良好な関係を築くことを心掛けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一定の職員以外の外部研修は現状出来ていないが、新人職員には経験豊富な職員が指導し、実務を通して学んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常グループ内での意見、情報交換など定期的に行い、研修などで知り合った他施設の職員等とも情報交換等行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から出来るだけ多くの事情、情報を伺い、入居後もご本人の不安や要望等を傾聴し誠実丁寧な対応と説明をすることで、安心し信頼して頂ける関係作りにも努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時より困っていることや不安、要望等を伺いご家族が望む生活が出来るよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が必要としている支援または、現在の状況を把握しホームでの生活の中で何を一番望んでいるかを伺い、実践に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が「できること」「できないこと」を把握し、相手の思いを理解し共に関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話時に本人の状態や日々の様子を説明し、特記事項があれば家族の方に報告している。また定期的な連絡や報告を心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの流行によりご家族の面会などが出来ない状況が続いていた。5類になったことで面会など解放したいと思うがコロナやインフルエンザの流行は止まず苦慮している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はみんなで居間で過ごして頂くように促している。利用者様の性格や相性を把握し、レクリエーション等を通じ利用者同士がコミュニケーションや交流の場を作り関係が円滑になるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に伺ったり相手の方から相談等があれば必要な情報を提供共有や連携に努めている。 ご家族からのご連絡ご相談などもある。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の悩みや要望など毎日のコミュニケーションを取る中で把握出来るように努めている。 困難な場合はご家族に相談している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴を聞き取り、コミュニケーションを取る中で情報の把握に努め、ホームの生活の中に少しでも取り入れ居心地の良い環境づくりに努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や過ごし方を記録し申し送りすることで変化や発見等を職員間で情報共有し現状把握、それぞれにあった生活が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの情報や意向を取り入れ定期的に見直しをしている。また、状態等の変化によって適宜介護計画の変更している。その際はご家族、主治医のご意見も反映できるように努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やヒヤリハット、グループLINE等で広く情報を共有し介護計画の見直し、実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のその時の状況に応じ、必要な支援が出来るよう努めている。 また、ニーズを発信できない利用者様は、詳細な状態観察をしてご家族、主治医等と相談しながらご本人にとって一番良い状況になるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で中止となっていることもあるが、各々の地域資源を把握し、利用できるように配慮している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回と隔週1回のかかりつけ医による往診があり、その際に個々の状態を報告している。また、かかりつけ医の選定についてはご本人、ご家族様の希望に沿うように努めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の採用。 また、訪問看護ステーションと連携し、ご利用様の健康状態の報告、相談、リハビリ等日々の健康に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご利用様が適切な医療、看護を受けられるよう必要適切な情報提供に努めている。 また、面会に伺ったり、ご家族様と綿密に連絡を取りご本人の状況を把握するように努めている。 長期入院となった際はその後の相談にも対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期、看取りについての話し合いや説明をし、事前に確認を行い書面化して同意を得ている。 また、家族や主治医や看護と共有し、方針を図って支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当の訓練は実地出来ていないが緊急対応マニュアルをリビングに置いている。 緊急の際は救急車を要請することを基本としている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル、職員の緊急連絡網を作成しており、体制は整っている。 運営推進会議を通じて地域との協力体制を気づいている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の羞恥心の配慮だけでなく、ご利用者の気持ちを尊重し、個人情報や権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いに対応に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いを発信できるような環境作りや言葉掛け、人間関係作りをし最初から否定しないように努めている。 自己決定が困難な方には言動からニーズを読み取り意に沿うように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床や就寝時間等を一人一人のペースに合わせている。 一日の流れや時間の使用方法も一人一人のペースを最大限に尊重し寛いで居心地よく生活出来るように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣等ご自身の希望通りのおしゃれを楽しんでいただいている。 認知度の高い利用者様には、清潔を心がけ、季節や場所に適した衣類等のアドバイスをしておしゃれを楽しんでいただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日の昼食と夕食は職員が調理を実践している。 食事後の食器拭き等利用者様の能力に合わせてお手伝いをしていただいている。 昼食は職員と共に会話を楽しみながら食べている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を都度把握し記録している。 個々の状態に応じて食事形態や量、食べやすい器を変えたり必要に応じて食事介助を行い安全に食事が出来るように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実地している。 必要であれば声掛けや介助をし、歯磨き後のチェックを実地している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄の失敗が無いように定時と随時声掛けや誘導を実践している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し、看護師、主治医と連携を取り個々に合った排便コントロールを行っている。 また、便秘予防の為に食事や水分摂取を促し、毎日適度な運動を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週に2回、午前から午後にかけて行っている。 無理強いはせず湯の温度や時間など好みに合わせてゆっくり楽しんでいただけるよう努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子使用者や体力が乏しい利用者様はベッドやソファー等で休息する時間を持つようにしている。 日中に活動の場を多く提供し、夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容が分かりやすいようにファイルしており、間違いなく服薬できるように与薬のチェックを職員2名以上で行っている。 臨時薬は、直接口頭で伝えるとともに、グループLINEや連絡帳を使用し職員全員が確認出来るように努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じた役割を家事や活動の場で持って頂き自己有用感、楽しみを持てるよう支援している。 塗り絵やパズルやゲーム等、その人に合わせた楽しみごとを提供している。 また、好きな方には食器拭きや洗濯物たたみ等家事全般のお手伝いも実践している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	幣ホームから外食・遠足・散歩・初詣・ふれあい市場・買い物付き添い等、定期的に外出を実施していたが、現在はコロナ禍の影響で出来ていない。 個人的な買い物等、希望があれば外出できるよう努めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を行った際はご本人の希望や力に同じご本人が支払えるよう援助をしている。 各々のお金は、ご家族やご本人の希望により責任を持ってお預かりしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話があれば必ずご本人に取り次ぎ、ご本人からの希望があれば、いつでも電話を使用できるようにしてご利用様の交流関係が継続できるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや玄関・廊下・居室等に季節に合わせた飾りなどしている。 また、毎日清掃し必要に応じ遮光したり、室温や湿度の調整、換気を行い快適に過ごして頂けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングなど各々が思い思いに居場所を見つけくつろいで過ごせるよう配慮し、状況に応じて座る場所を誘導し、皆さんが落ち着いて過ごせるよう気配りをしている。 。ソファやテーブルで談笑する場面も多い。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、馴染みや思い入れのある家具や物を置きその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室づくりをしている。 また、希望により新たに好みのものを導入するときもある。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解しやすいように貼紙を利用したり、利用者が安心・安全に移動できるように動線の確保、環境整備にも気を付けながら、出来る限り自立した生活が安全に送れるよう工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない